

「想定外」 3.11 複合災害と日本

制作 ヤスパゼン・マルテ

(日本語訳 石川桂子)

アブストラクト

ラジオドキュメンタリー (Radio Feature) は、第二次世界大戦後のドイツで音響芸術の新たな形態として確立された。ラジオドキュメンタリーはラジオドラマとは異なり、事実、即ちノンフィクションを扱う。その形態は実に多種多様なものが許され、音楽、言葉、サウンドが果たす役割は番組によってさまざまである。BBC でかつてドキュメンタリー部長を務めたジョン・シオカリスは、「ドキュメンタリーは、ラジオが持つあらゆる可能性を駆使し、聴く人の想像力をかき立て、世界への、そして人間存在への理解を深めさせてくれる」と述べている。

本稿は、ドイツの放送局であるドイツ文化ラジオ (Deutschlandradio Kultur) とバイエルン放送局 (Bayerischer Rundfunk) のために制作したラジオドキュメンタリー「想定外」の原稿であり、2011年3月11日に日本の東北地方を襲った大災害について長い時間をかけて調査をした結果である。執筆者は、ルポルタージュの伝統的な手法に加えて、音響芸術学的で詩的な要素も取り入れ、存在に関する実存的な問いに取り組んだ。それは、ここで扱う問いが今回の大災害を経験した後では、もはや東北地方の人たちだけが改めて問いかけるようなものではなくなくなってしまっているためである。

「想定外」は、2012年のPrix Italiaにおいてイタリア大統領特別賞を授与された。Prix Italiaは、ラジオ・テレビ・インターネットに関する最も歴史のあり、最も重要な国際コンテストとして知られている。世界45か国の公共放送あるいは民間放送がPrix Italiaの正規会員である。

キーワード：3/11, 津波, 福島, ラジオ, ドキュメンタリー

語り手 (男性) 2

プロローグ 2011年3月 日本のクリーニング店での会話

語り手 (女性) 1

こんにちは、マルテさん。お久しぶりですね。

ヤスパゼン

ええ、ドイツに行っていたんです。

語り手（女性）1

戻ってくるのは、怖くありませんでしたか。

ヤスパゼン

いいえ、特に。あなたは怖くありませんか。この辺りの海岸は原発だらけでしょう。

語り手（女性）1

そうですね、ひどいものです。

ヤスパゼン

あそこで何か起これば、琵琶湖も私たちの飲み水も終わりですよ。

語り手（女性）1

そうですね、そうしたらもうここには暮らせませんね。はい、こちらのシャツですね。ありがとうございました。

ヤスパゼン

さようなら。

音 楽

アナウンス

「想定外」3.11 複合災害と日本

制作 マルテ・ヤスパゼン

境利夫

「何も音がしないんです。がれきの上を歩く自分の足音と、海から来る風の音だけ。動物もいないし、鳥のさえずりもない。生き物の気配が全くない。どこもかしこも、砂と泥だらけでした。」

ヤスパゼン

境利夫氏は、消防のレスキュー隊員だ。

境利夫

「本当の意味で静かというわけではなかった。でも、音が跳ね返るものがないんです。風が吹

かなければ、死んだように音がしなかった。全く音のない世界でした。」

音 楽

ヤスパゼン

派遣先への移動には30時間かかった。大阪から津波の被災地まで、700キロを30時間。与えられた任務は、生存者の救出だった。

境利夫

「そこは、漁港だったところです。腐った魚介類の匂いがものすごくきつい場所もあって、マスクも役に立ちませんでした。別の場所に行くと、そこには何もなかった。匂いもないなんて、経験したことがありません。人が生きているところでは、いつも何かの匂いがするでしょう。でもあそこには、生きている人はもういなかった。」

音 楽

太田奈緒美, 語り手 (女性) 1

「ずたずたの三陸海岸, ずたずたの家が今朝も放映されて」¹⁾

サウンド 陸前高田

ヤスパゼン

2011年11月。散乱したがれきは、かなり片付いている。果てしなく続く荒涼とした光景。車を走らせるこの道の先には、もう何もない。数え切れないほどの、廃車の山を横切る。雑草が生い茂っている。どこかにマネキン人形の頭が転がっている。髪の毛がこびりつき、顔は黒ずんだしみだらけだ。奇妙なほど穏やかな表情をしている。私は今、陸前高田市の街の中心に来ている。

境利夫

「映画の中か夢の中にいるようでした。さっきまで大阪にいて、水道でも電気でも何でもあったのに。あまりのギャップに言葉を失いました。」

サウンド 陸前高田 僧侶

ヤスパゼン

陸前高田市庁舎。残された数少ない建物の廃墟。ガラスのない窓枠で、風がブラインドを揺らす。がれきが散乱する玄関ホール。ぐちゃぐちゃに曲がった配管やちぎれたケーブルが、天井からぶら下がっている。片隅には車の残骸。そんな破壊された光景の真ん中に、急ごしらえの

仏壇があつらえられ、花と線香と供物が置かれている。一人の僧侶が祈りを捧げる。

音 楽

語り手（男性）2（「般若心経」より）

無色声香味触法

乃至無老死 亦無老死尽

無苦集滅道²⁾

ヤスパゼン

僧侶は仏壇の前に頭を垂れ、ここ陸前高田で亡くなった二千人以上の犠牲者³⁾に祈りを捧げる。遠くでは、海が太陽の光にきらめいている。

音 楽

ヤスパゼン

何が起きようと、大地はいつも不動で揺るがない。私は、幼いころからそう信頼しきっていた。しかし、その根源的な信頼を日本で失ってしまった。母なる大地だって、役目を果たせなくなることもある。私には、どうしても慣れることができないが。

境利夫

「多くの遺体は、『何で自分が死ななければいけないのか』という表情をしていました。何で私が、って。たくさんの人が、突然日常から引き裂かれてしまった。心の準備はしていましたが、私の想像力を超えていました。あの表情は、忘れられません。」

ヤスパゼン

どうすれば、そういった経験を乗り越えられるのでしょうか。

境利夫

「最初の1、2週間は、悪い夢をたくさん見ました。ものすごく罪悪感がありました。交代命令が出たときにも、作業はまだ全然終わっていなかった。やるべきことを最後までやらずに放り出したような気持ちに苦しみました。しかし妻が『できることはやったのだから、あとは次の人たちに任せればいい』と言ってくれて、気持ちが楽になりました。一度、医者にも相談しました。職場の同僚も気を使ってくれました。それでやっと気持ちの整理ができました。」

音 楽

太田奈緒美, 語り手 (女性) 1

「海は風ぎ被災の心に風ぎは無し, 雨傘のなかに繰り返しおもう」⁴⁾

語り手 (女性) 2

荒涼とした陸前高田の街にそびえる巨大ながれきの山。市内では90万トン, 沿岸地域全体では2300万トンだ。全建物の5分の4が破壊されてしまった。復興には8年かかると予想されている。街をよみがえらせる可能性は5割にすぎない, と懸念する専門家もいる⁵⁾。

音 楽

中手聖一

「生活の全てが変わってしまいました。私たちがいる福島市も線量が高いので, 子供たちを避難させなくては, と決心しました。」

ヤスパゼン

福島原発事故以来, 中手聖一氏は一人で暮らしている。妻は二人の息子を連れ, 1,000キロ離れた西日本の親戚のもとに移って行った。

中手聖一

「ただし, 自分や友人の子供たちだけではなく, 福島の子供たち全員を守らなくてはいけないと決意しました。そうやって始まったのです。」

サウンド 福島ネットワーク/音 楽

ヤスパゼン

こうして「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」が設立された。中手氏は発起人の一人だ。私はインターネットでこのネットワークを見つけた。ホームページの動画には, 親たちが政府の役人に不安な気持ちを訴える様子が映されている。役人の対応は他人行儀で及び腰, 心配無用と言わんばかりだ。

中手聖一

「怒りを通り越して憎しみに近いですよ。政府は, ここの危険性はそれほどでもないなんて主張するのですから。」

音 楽

語り手（男性）1

「笑顔でいる人に放射能被害は起こりません。起こるのは、いつも心配ばかりしている人だけです。これは動物実験ではっきり証明されています。被ばく量が毎時 100 マイクロシーベルトを超えない限り、健康被害の危険性は全くありません。」

音 楽

ヤスパゼン

こう話すのは、福島県放射線健康リスク管理アドバイザーで放射線被ばく専門医の山下教授だ。その実験は、一体どのような指示でやらせたというのだろう？国際放射能防護委員会が、原発作業員や緊急時の住民の許容限度としている基準値の9倍近くに相当する被ばく量について、山下教授は危険ではないと論じた⁶⁾。

中手聖一

「こうした行政のプロパガンダには、本当につらい思いをしています。地域の中で孤立させられ、変人扱いされる人もいます。家族や夫婦、あるいは私たちのグループの中でも、除染や避難の意味について意見の対立があります。でも、福島県に来たアドバイザーに出て行ってもらうという点では、皆一致しています。」

音 楽

語り手（女性）1

ベクレル、グレイ、ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137、マイクロシーベルト、ミリシーベルト。

ヤスパゼン

混乱と動揺は、ほとんど限界に達していた。ベクレル、グレイ、ヨウ素 131、セシウム 134 と 137。毎時マイクロシーベルト、年間ミリシーベルト。外部被ばく、内部被ばく。安全か、安全でないか。留まるか、避難するか？

ヤスパゼン

福島市は、一見したところ他の街と変わらないように見える。市内では、日常生活が続いている。そこで私は、特に線量が高いという渡利地区の児童公園に行ってみた。すでに除染されている。しかしジャングルジムの前にある看板は、「子供は1日1時間以上遊ばないようにしましょう。遊んだ後は、手と顔を洗ってうがいしましょう。」と警告する。近所には、一戸建ての家が並んでいる。

中手聖一

「家族がおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでいると、祖父母が下に住んで、子供のいる若い家族が二階に住むことが多い。それがここでは今、逆になっています。屋根が汚染されているので、二階の放射線量のほうが高いのです。だから子供と一階で寝るという若い人が増えています。」

ヤスパゼン

中手氏は、次のように語る。「教師は、学校で放射能汚染をテーマにすることを禁じられている。『子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク』は、危険性に関する意識を持ってもらおうと、詳細な情報を提供し活動している。避難せず留まるようにという社会の圧力は、とても強い。避難するか否かの問題で、関係がすっかりこじれてしまった家庭もある。ネットワークは、避難先を探す親たちを支援している。しかし、移りたくても移れない人もたくさんいる。金銭面で縛られていることが多いし、別の土地で適当な仕事を見つけるのは、とても難しい。」

音 楽

太田奈緒美, 語り手 (女性) 1

「ほうれんそうザブザブ洗い両手冷ゆ, 原発事故ののちの惑いに」⁷⁾

語り手 (女性) 2

放射能汚染された食品についての新たなニュースが次々と報じられ、米を流通できなくなる農家の数が増えていく。多くの人が不安になり、被災した東北地方産の食品に手を出さなくなる。

音 楽

ヤスパゼン

私たち夫婦もそうだ。原子力安全委員会専門委員である奈良林直教授がテレビ番組で発言したことも、私たちの疑念を晴らしてはくれなかった。奈良林教授によると、食物と一緒にプルトニウムを摂取しても、32グラムまではそれで死ぬことはない。プルトニウムを吸い込んだ場合の致死量は、10ミリグラム以上とのことだ⁸⁾。これに対し、在野の専門家には、百万分の1グラムでも肺がんを起こす危険性があると推測する人もいる⁹⁾。

清水徹二

「全てが一瞬の出来事でした。呆然としていました。被害の状況を見て、これからのことを考えたとき、生まれて初めて泣きました。聞かれなくなかったので、ふとんをかぶって泣きました。74歳にして、泣くというのは気持ちがとてもすっきりすることだと知りました。」

ヤスパゼン

清水徹二氏は、特産品のサンマを加工する小さな工場を経営している。

語り手（女性）2

清水氏の工場は気仙沼にある。気仙沼は、最も被害の大きかった漁港の一つだ。街を襲ったのは水だけではなく。石油タンクや船舶用ディーゼル燃料が引火し、津波で破壊された街に追い討ちをかけるかのように、炎に包んだ。

音 楽**太田奈緒美，語り手（女性）1**

「屋上に裏返る車体，電柱に揺れている机 うつつはコラージュ」¹⁰⁾

サウンド 気仙沼**ヤスパゼン**

清水氏は三階の窓から外を見ている。清水夫妻と息子たちは、この窓からシートを使って4人の命を救った。氷のように冷たくどす黒い水に流されていた人たちだ。9カ月が過ぎた今の光景は、私には、開発したばかりの新興住宅地のように映る。焼失した老人ホームの跡と、津波に流され建物に突っ込んだままの巨大な漁船がなければ、の話だが。

清水徹二

「残された者にとっては、これからどう生きていくかが課題です。知り合いの間では、奥さんたちはもうここには住みたくないという人がほとんどです。男性のほうは、再建して住み続けたいと考えている人が大勢います。」

サウンド 気仙沼**語り手（女性）2**

将来を考え、清水家は家屋と工場を鉄骨造にしていた。おかげで、内装、冷凍室、倉庫、機械は壊れたものの建物は持ちこたえたのだ。今は稼働率3割で操業を再開している。

清水徹二

「協同組合の仲間には、何もかもなくした人が大勢います。この人たちのために、国は小さな建物ですが仮設事業所を作りました。それで少しずつ将来のことを考えられるようになった。でも魚を切ったり、梱包したりする道具がない。どこに行ってもお金が足りないのに、どうすれば調達できるのでしょうか。」

ヤスパゼン

清水氏は、水産加工業協同組合の組合長をしている。協同組合には50以上の会社や工場が加盟していて、ウェブサイト上はそのままになっている。しかし、その大半はもう存在しない¹¹⁾。協同組合は、文字通り流失してしまったのだ。

清水徹二

「支援は受けられますが、被害があまりに大きすぎるのです。気仙沼の水産関係だけでも5億ユーロ必要です。でも沿岸部全体で、水産業の復興予算は2.5億か2.6億ユーロしかない。支援を受けられるかどうかは、全くの運次第です。」

語り手（女性）2

復興努力が成果を出すまで、まだ何年もかかるだろう。しかし若い人たちはそんなに長く待てない。彼らは、どこか別の土地に移り、そこで再出発するほかない。時間が経つにつれ、被災した沿岸地域の若い住民は、散り散りになってしまうだろう。そして高齢者だけが残されることになる。

ヤスパゼン

清水さんの海との関係は変わりましたか？

清水徹二

「いいえ。海は私たちに恵みをもたらしてくれます。私たちはこの大きな地球に暮らしていて、地震も地球の営みの一つです。それであれば、私たちはそれに適応してやっていくべきだと思います。そうすれば、気仙沼もまた復活するでしょう。」

音 楽

ヤスパゼン

ドイツから届いたメール。

語り手（女性）1

「日本人は、想像を絶するあれほどの災害にあっても、一体どうすればあのように落ち着いていられるのでしょうか？」

境利夫

「被災者の人たちは、家族や友人を亡くしたばかりでした。ほとんど食べるものもなかった。落ち着いていたというより、呆然としていたのです。目から光がなくなっていました。自分のおかれた状況が全く信じられず、何にもやる気が起きなかったのだと思います。」

ヤスバゼン

別の側面もある。ガソリンの盗難。自動販売機荒らし。空き巣狙い。避難所での強姦事件すら発生し、女性ボランティアたちは、特に夜は必ず二人で行動するよう指導されている。こうした事件は、明るみに出ることがあってもかなり時間が経ってからだ。私がマイクを向けても、誰もそのことは語りたがらなかった。

サウンド ガイガー・カウンター**伊藤延由**

「今が一番嬉しい季節です。私たち農家にとっては、新しい米を収穫して皆さんに食べてもらうのが一番嬉しいことなのです。」

ヤスバゼン

収穫の時期だ。伊藤延由氏は定年退職したITスペシャリストで、米農家。自分の田んぼに立っている。空は晴れ、稲は乾燥させるため束ねられている。田んぼは、なだらかな山の中腹にある。ここ飯館村は、日本で最も風光明媚な地域の一つだ。こちらに向かう途中、私はガイガーカウンターのスイッチを入れた。原発からは直線距離で35キロだ。

伊藤延由

「それが全て奪われてしまったことに、怒り心頭です。」

ヤスバゼン

鳴り続ける警告音が煩わしくなってきたので、警告レベルを毎時10マイクロシーベルトに引き上げる。これでやっと静かになった。

音 楽

語り手（女性）2

シーベルトとは、人体に影響を与える被ばくの量を指す。ドイツでは、自然放射線の被ばく量は平均毎時0.24マイクロシーベルト、年間2.1ミリシーベルトだ。これに、レントゲン検査などによる人工放射線約2ミリシーベルトが加わる¹²⁾。

伊藤延由

「3月15日に風がこちら向きになりました。最初に雨が降ってそれから雪になり、それで雲に含まれていた放射性物質が全て落ちてきてしまった。ヨウ素はもう消えたけど、セシウムはまだ大量に残っています。国はこの地域の稲作を禁止しました。汚れた田んぼをどうやってまた使えるようにするか、本当に悩みます。そこで、禁止はされたけど作り続けようと思ったのです。」

ヤスパゼン

伊藤氏の家のベランダに、小包が置いてある。米、野菜、きのこのこの入った袋があり、袋には文字が書かれている。伊藤氏は、どの作物が特に汚染しているかを研究所で定期的に調べてもらっている。どのような手法を使えば、地中の放射能を減らせるかを試しているのだ。試験が済んだサンプルは返送されてくる。特殊廃棄物としてだ。

音 楽

伊藤延由

「ここの土壤汚染は場所によって大きく異なります。1メートル四方でキログラムあたり25,000ベクレルから93,000ベクレルの間です。」

語り手（女性）2

ベクレルとは、放射性物質の原子核が1秒間に平均してどれだけ崩壊するかを示す単位。ちなみに、自然界に存在するセシウム137による土壤汚染は、ドイツでは1キログラムあたり約400ベクレルだ¹³⁾。国際原子力機関ですら、飯舘村の測定値が健康に害を及ぼすレベルであることを指摘し、日本政府はようやく地区全体の避難を決めた。

ヤスパゼン

水素爆発から2カ月半後、こうしてルクセンブルクの国土面積に相当する地域が無人地帯になってしまった。

音楽・サウンド 飯舘村

伊藤延由

「禁止されて何も作付けできないと、何も収穫できません。本来は、それなら政府が保障するというのが普通でしょう。なのに政府は『東電からもらえ』という。」

ヤスパゼン

では、東電は何をしたか？まず被災者に申請書を書かせた。説明だけでも156ページもある。抗議の声がやまなかったので、これを4ページに縮小した。事故が原因で避難したことを証明できた人は皆、生活基盤の喪失に対する暫定的な賠償として、換算して1万ユーロを受け取った。今後どうなるかは、まだ決まっていない。これまでに150万件の賠償申請が出されている¹⁴⁾。

伊藤延由

「まるで封建時代のようなようです。農民はとてもひどい扱いを受けている。どうして怒りを表さないのでしょうか？私のお隣さんは、『誰かが爆弾を作ってくれたら、国会に持ち込んでやる』って言っています。でもほとんどの人は、大きな声では言えませんが、完全に飼いならされている。これには、本当に歯がゆい思いをしています。」

ヤスパゼン

伊藤さんは、放射能が怖くないのですか？

伊藤延由

「いいえ、全然。人間の死亡率はどうせ100%です。ここで起きていることを伝えるのが私の使命です。もし私が1年か2年して病気になり、放射能との因果関係が証明されたら、名誉なことです。100ミリシーベルト以下の被ばくは健康に影響ないと言った有名な山下教授の説を、自分の身体を使って覆せるのですから。」

ヤスパゼン

この地域の将来はどうなると思いますか。

伊藤延由

「周りの山は全部森林です。森林をきれいにしない限り、放射線問題はこれからも出てくるでしょう。でも、山を除染するのは無理なのです。このジャガイモは、もう誰もほしがらないでしょう。ですからここを出て、いろいろなところで新飯館村という名で再出発したほうがいいと思います。北海道にある新飯館村で作ったジャガイモなら、おそらくまた買ってもらえる

でしょう。]

音 楽

太田奈緒美，語り手（女性）1

「飯館の ひとり織りなす 死の錦」¹⁵⁾

飯田哲也

「SPEEDIは政府の早期警戒システムです。放射性物質が風でどう拡散していくかを、リアルタイムでシミュレーションします。」

ヤスパゼン

飯田哲也氏は、原子力と再生可能エネルギーの著名な専門家だ。

飯田哲也

「3月11日も、システムは全く正常に作動していました。でも誰もそのデータを公表せず、適切な避難が行われるように活用しなかったのです。」

語り手（女性）2

原子力安全委員会の班目委員長は、政府の原子力災害対策本部の会議出席メンバーでもあったが、SPEEDIは天気予報の一種にすぎず、重要なデータが停電で活用できなかったのでシミュレーションに価値はないと述べた。これに対しシステム開発者たちは、SPEEDIはまさにそのような不測の事態のために開発されたプログラムだと反論した¹⁶⁾。水素爆発の後、政府は原発から半径20キロ圏内の住民に避難指示を出した。人々は逃げた。多くの人は、風が放射能の雲を運んでいった方向に逃げた¹⁷⁾。

飯田哲也

「その結果、大勢の人が放射性降下物で被ばくしました。SPEEDIの活用を誤った、または全く活用しなかったという著しい過失で、政府による重大な歴史的過ちです。」

音 楽

ヤスパゼン

事故発生後の2カ月後、私は20キロ圏内から逃げてきた人たちの避難所を訪問した。工業地域にある巨大なイベントセンター。冷たい蛍光灯。被災者のために用意された、ダンボールやブルーシートでできた仕切り。無表情のまま横になった人や、天井をじっと見つめる人。私がイ

インタビューを申し込むと、ふいとそっぽを向いてしまう。多くの人、特に年配の人に未来はない。どこかに建てられた仮設住宅に入居することになるだろう。でも、自分の村や、家畜や、畑にはもう戻れないのだ。皆それを感じていた。一つの世界の終焉とは、こういう状況のことをいうのだろう。

音 楽

太田奈緒美，語り手（女性）1

「どの教え 死の灰の民 導くか」¹⁸⁾

加藤裕子

「私はごく普通の働く母親で、原子力のことは何も知りませんでした。福島に原発があることすら知らなかったんです。」

ヤスパゼン

加藤裕子氏は今、11歳の娘とともに京都で暮らしている。子供を守るために福島から移ってきた他の複数の家族と一緒に。

加藤裕子

「インターネットで、京都大学の有名な原子力専門家のコメントを見つけました。放射能にはそこから下は安全、という閾値はないとおっしゃったんです。それから私たちのいた地域で毎時23.88マイクロシーベルトが計測されたのを見て、娘と一緒に即刻ここを出なくては、と思ったんです。」¹⁹⁾

ヤスパゼン

加藤氏の家族はその決断を受け入れた。しかし友人らは、根拠もないのに逃げるのかと激しく非難した。今、彼女は京都で、これまでの蓄えと市が仲介した短期パートで生計を立てている。

音 楽

語り手（女性）2

避難区域に指定されなかった地域から自主避難した人々は、汚染の程度がどんなに高くても、国からの財政支援は受けられない。

サウンド 加藤 スピーチ

ヤスパゼン

加藤裕子氏は、政治活動を行うようになった。反原発のイベントにスピーカーとして参加し、京都市長選で原発反対派の候補が立候補したときには、応援チームに入った。

加藤裕子

「(原発が) どれだけ危険なものか、私は身をもって体験しました。これを他の人たちに伝えなければなりません。原発を廃炉にしなければいけない。そうでなければ、この国の未来はありません。最近、娘とともに日本に残るべきか、海外に行くべきかで苦しんでいます。どうしていいか、わからないんです。」

サウンド 加藤 スピーチ

音 楽

太田奈緒美, 語り手(女性) 1

「青空はどこまで強いのか、余震して鱗の入りたる天を見上げる」²⁰⁾

ヤスパゼン

残るか、残らないか。原発事故発生後は、これが問題だった。政府の対応の混迷ぶりを見て、多くの外国人が日本を去り、そのことで不興を買った。私自身は地震発生時、ドイツにいた。ドイツでは、なぜ日本人が沈没する列島から船で脱出しようとならないのか、人々は理解できていた。帰りの飛行機に乗る前、私はガイガーカウンターを買おうとした。将来のことも考えてだ。なにしろ、私が住む地域には13基の原子炉がある。それも、脆弱な地盤の上に。しかし、ガイガーカウンターは売り切れていた。日本でなく、ドイツでだ。一方、京都に戻ってみると、人々は福島事故がもたらす危険性を全く認識していないか、さらに悪いことにはあえて知らないようにしているように見えた。

音 楽

語り手(女性) 2

長年のプロパガンダが大いに功を奏したのだ。「よい原子力」すなわち原子力発電は「悪い原子力」すなわち爆弾とは違うものだ、ときれいに線引きされた。政府、電力会社、メディア、学校は、皆一枚岩だった。批判は抑え込まれ、原発反対派は冷遇された。

ヤスパゼン

部下が避難するかどうかは各人の判断にゆだねる、とした東京のある大企業の幹部社員が、会

長に呼び出された。「自分の国の政府すら信用できないで、どうするんだ!」と。

アイリーン・美緒子・スミス

「このような態度は江戸時代から来るもので、今でも根強く残っています。政治の話をする人は、特定のグループに属する奇妙な人、変な人、と教え込まれる。だから政治に関する議論はほとんどタブーで、いやなものだと思われている。人々は自己検閲をし、行動を起こさないの、その時々権力者にとってはこれほど都合のよいことはありません。」

ヤスパゼン

こう話すのは、反原発運動家のアイリーン・美緒子・スミス氏。

サウンド デモ

ヤスパゼン

政府を信頼するとどうなるのか、疑問視する声徐徐に増えている。

アイリーン・美緒子・スミス

「外国ではよく、日本には強力な反原発運動はないと言われますが、決してそんなことはありません。」

ヤスパゼン

アイリーン・美緒子・スミス氏は、京都の団体「グリーン・アクション」の代表を務めている。

アイリーン・美緒子・スミス

「原子力発電所は、それぞれの立地で反対運動がありました。計画を阻止できたところも多いのです。もし1960年代からのこうした運動がなければ、今ごろはフランスのように電力の8割を原子力が占めていたでしょう。」

サウンド デモ

ヤスパゼン

大都市や原発周辺で抗議集会が開かれている。脱原発を求める1,000万人の署名を集めようという運動もある。近所の八百屋さんも参加している。

アイリーン・美緒子・スミス

「私はいつも指圧や柔道と比較しています。私たちは、小さいからこそ、相手を投げ倒すのに

相手自身の力を利用しなければいけないし、ツボを見つけなければならないのです。」

語り手（女性）2

2011年4月、文部科学省は、政府の専門家の意見を踏まえ、児童・生徒の被ばく線量の基準を年間最大20ミリシーベルトまで引き上げた。県民の半分を避難させるような事態を避けるためだ。この基準は、ドイツの原発作業員に適用される年間許容線量に相当する²¹⁾。

ヤスパゼン

しかし、福島の保護者のネットワークが主催した政府関係者との会合で、役所側は皆、カメラが回る中、この決定の責任を引き受けることを拒否したのだ。

アイリーン・美緒子・スミス

「私たちが強く追及した結果、数日後、大臣が年間許容線量を1ミリシーベルトにしていく方針を表明しました。」

音 楽

ヤスパゼン

私の妻は、あるとき購読していた新聞を替えた。問題の本質を避けるような新聞の報道ぶりが耐えられなくなったのだ。一方で、インターネット上では幅広いカウンター世論が確立し、情報を交換している。電力会社の広告料に依存しない小規模の新聞・雑誌も、批判的に報じている。テレビ局ですら、次第に原子力安全神話に批判的な姿勢をとるようになっていく。ただし、責任者の追及は避けているが。

音 楽

語り手（女性）1

「想定外」。

ヤスパゼン

政府と東電は、呪文のようにこの言葉を繰り返した。

語り手（女性）1

「想定外」。

語り手（女性）2

ドイツ語にすると「想像できない、予見できない」。

ヤスパゼン

この言葉は、東北地方を襲った事象が何だったのかを言い表している。日本史上最も甚大な地震災害の一つ。想像を絶する高さと威力を持つ津波。予測は不可能だった、と東電や原子力安全・保安院はいう。

メッセージは明らかだ。予測できないことに、責任をとる必要はない。

私は「想定外」は別のことを表現していると思う。地震学者の石橋克彦氏は、そもそも日本のように地震の多い国に原発を作るのは、「ロシアンルーレット」のようなものと語る。石橋氏はすでに1997年、震災と原発事故の複合災害の発生というシナリオを策定したが、責任者たちはこれを「素人」のたわごとと片付けた²²⁾。東電内部にも、津波の危険性に警告を発するシナリオが何年も前から存在したが、握りつぶされた²³⁾。

語り手（女性）1

「想定外」。

音 楽

ヤスパゼン

政府は調査委員会を設置したが、責任の追及が問題なのではなく、将来のためにどのような教訓を得るかという点だけが問題なのだと強調した²⁴⁾。8万人もの人々が生活の基盤を失ったというのに。そして、住民を安心させるため、すべての原子炉についてストレステストの実施を指示した。ただしテストを実施するのは、国内最大手の原子炉メーカー²⁵⁾であって、独立した第三者の関与はない。加えてストレステストでは、福島のように地震と津波が同時に発生する事態は考慮されていない。原子力安全・保安院は、ストレステストでそのような事態を想定する必要はないとしている²⁶⁾。

最近、国会は原子力技術の輸出継続を認めた。野田総理は、福島の事故の経験を世界と共有し、最高の安全基準による原子力技術を提供することが、日本の務めだと強調した²⁷⁾。

音 楽

太田奈緒美、語り手（女性）1

「世の中は ちろりに過ぐる ちろり ちろり」²⁸⁾

菅野剛

「何もかもなくなってしまうました。でもそれは、これ以上ひどくはならないということです。今はゼロだけど、これがプラス1、プラス2になるようにがんばっていきます。」

ヤスバゼン

菅野剛氏は、陸前高田の街のはずれに住んでいる。津波が、彼の住んでいた地区で500軒もの家をめちゃくちゃに渦の中に巻き込んでいった様子は、まるで巨大な洗濯機の中のようなだったという。あの午後のことは、それ以上思い出せない。菅野氏は、近所の人と一緒に高台にある寺に逃れた。今、寺の横には太陽光発電モジュールが置かれている。森のそばにある仮設住宅にも設置された。

サウンド 「つながり・ぬくもりプロジェクト」

語り手（女性）1

「太陽光パネルを避難所や仮設住宅に。『つながり・ぬくもりプロジェクト』。次のエネルギーで復興支援を。」

飯田哲也

「私たちは、『つながり・ぬくもりプロジェクト』というプロジェクトをスタートさせました。再生可能エネルギーを使って被災地とのつながりを作っていこう、そして暖めよう、という意味が込められています。3月のあのころは、まだとても寒かったですし。」

語り手（女性）2

この緊急支援活動を主導したのは、エネルギー専門家飯田哲也氏の「環境エネルギー政策研究所」だ。寄付を使って設置された太陽光発電設備やバイオマス・ボイラーが、エネルギー供給から分断された被災地の避難所や仮設住宅に、電気、光、温水を提供した。電力会社の独占体制は打破できるということ、再生可能エネルギーは日本の原子力政策を代替するものだというところを、分散型発電の拡大によって示す。それが、このプロジェクトに参加する20団体の狙いだ。

語り手（女性）2

政府や原発事業者は認めたがらなくても、日本の脱原発はすでにはほぼ実現している。2012年2月末時点で稼働していた原発は、54基のうち2基だけだ。その他の原発は、定期検査、技術トラブル、あるいは震災被害のため停止中だ。経済産業省や電力会社の警告とは裏腹に、電力供給への影響は限定的だった。過剰な需要予測は、妥当性を持たないことが明らかになった²⁹⁾。

ヤスパゼン

津波を受け、菅野氏の家は4本の柱と金属製階段のほか何も残らなかった。菅野さん、これからのことはどう考えていますか。

音 楽

菅野剛

「私たちはここで、ずっと自然とともに生きてきました。たとえ津波がすべてを壊しても、何とかやっていけます。山には山菜やきのこがあるし、川には魚がいる。今回は自然に怒られたけど、いつもそうなるとは思いません。多分、私は以前と同じところに家を建てると思います。もしまた津波が来て、命があればもう一度建ててください。自然に身を任せるべきだと思います。」

ヤスパゼン

自然の力との関係は、共存という考えに基づいている。避けられない事象があるのを受け入れつつ、それが起こらないことを願う。いろんな人から、地震が起きたら自分は死ぬと思う、という話を何度も聞かされた。

音 楽

太田奈緒美／語り手（女性）1

「飛散する放射性物質　なんてこった、なんてこったと神は嘸うや」³⁰⁾

サウンド HCR 巡回

三浦万尚

「ゆっくりと後をついてきてください。放射能が1から3マイクロシーベルトぐらいになったら、絶対にマスクをつけてください。それから、窓は閉めたままにして、窓が曇ってもエアコンはつけなくてくださいね。外気が入りますから。」

ヤスパゼン

三浦万尚氏は、日産のバンに乗って仲間と原発避難区域を定期巡回する。僧侶であり、環境エンジニアでもある三浦氏は、「ハートケア・レスキュー」(HCR)というグループを主宰している。行政は、区域内にはもう誰も住んでいないというが、実際にはまだいるのだ。ふるさとを離れられない人、離れたくない人。しかし、彼らの面倒を見られる人はここにはもういない。三浦氏は防護マスクをつける。

サウンド HCR 巡回

三浦万尚

「民家が見えてきたら、減速して、誰か住んでいるかどうかを確認します。」

サウンド HCR 巡回

語り手（女性）1

13.31 - 14.19 - 15.23 - 15.50。

ヤスパゼン

人のいなくなった農家や農業用ハウス。壊れた屋根に雑草がからみつく。放置されたままの棚田には、萱が茂っている。落下したセシウムによってどす黒く腐った草むら。次第に雑草で覆われていく道路。あちこちに警察の検問所がある。そこから先は、原発周辺の立入禁止区域だ。私たちは白い防護服に身を包み、もやのかかった美しい山々を通る。その間、ガイガーカウンターの数値は変動し続ける。

ヤスパゼン

政府が設置した測定地点で車を停める。掲示板に、その日の測定値が示されている。11.0 マイクロシーベルト。しかし30センチ離れただけで、15 マイクロシーベルトだ。そこから数歩歩いたところで、全面防護マスクで顔を覆った三浦氏は数えはじめる…。

サウンド HCR（ハートケア・レスキュー）巡回

三浦万尚

「39.87 - 39.99 - 33 - 52 - 39.42。」

ヤスパゼン

年換算すると350 ミリシーベルトになる。しかしこの数値は掲示板には示されない。ドイツでは、年間4~5 ミリシーベルトが普通だ。三浦氏は、紅葉を指さす。雨にぬれた葉は鮮やかな赤色だ。きれいですね、と。一体どうすればいつかまたここで暮らせるのでしょうか、と三浦氏にたずねる。

三浦万尚

「除染は可能だと思っています。少しずつ、木を切り、表土を除去し、広葉樹を植え、それから別の地域に行き、また同じことをするんです。」

音 楽

語り手（女性）2

「ハートケア・レスキュー」は、南相馬市の原発周辺立入禁止区域のすぐそばに事務所を構えている。グループは、心理ケア、食品検査、家屋の専門的な除染などの活動を行っている。市役所よりも信頼する人が増えているが、メディアはその活動を全く報じていない。

男性の声

ヤスパゼン

農家の前で車を停める。男性は84歳。よく笑う。笑うとアンソニー・クインみたいだ。妻は認知症を患い、すでに別の世界に生きている。老人は、日常生活の話をする。最近、電話が通じなくなったこと。孤独について。夜、家を覆う暗闇について。別れ際に長いこと私の手を握ってこう言った。「心配はいらん、がんばってくから。」

音 楽

三浦万尚

「この地域は強制的に避難させられました。でもあの二人はこの土地に根ざし、この土地を愛している。避難所で暮らすよりもこちらに残って、被ばくしても仕方がないと思っている。線量が高いから、行政の支援もないし、医療も受けられず、NGOも自衛隊も立ち寄らない。全く孤立しています。だから私たちは、定期的に巡回して、体調はいいか、食べ物、飲み物はあるかとたずね、ちょっとおしゃべりをして、励ますのです。」

ヤスパゼン

三浦氏やパートナーの森本裕子氏は、この活動によって体によいとはいえない量の放射能を浴びている。なぜそれでも活動を続けるのかと森本氏に問う。

森本裕子

「やはり、放射能には日々恐怖を感じます。来年はもう生きていないかもしれない。あるいは10年後、まだ生きているかもしれない。それでも、この活動をしようと決心しました。すぐ隣で、命を失うかもしれない、助けを求めている人がいるのを見てしまったのです。そんなときに、すみません、私何もできないんです、さようなら、とは言えませんよね。」

音 楽

太田奈緒美, 語り手 (女性) 1

「終日終夜の沈黙の村」³¹⁾

音 楽

アナウンス

「想定外」 3. 11 複合災害と日本

制 作 マルテ・ヤスパゼン

協 力 マルティン・エングラ, カトレーン・ガブリヒ, シュテファン・カミンスキ,
リンダ・オルザンスキ, 太田奈緒美, ベルンハルト・シュッツ

詩 松平盟子, 以倉千壽

音 響 ルッツ・パール

演出助手 ゲラルト・ミヒエル

演 出 マルテ・ヤスパゼン

語り手 (男性) 2

エピローグ

ヤスパゼン

2人のゴルフ場経営者が、原発事故による放射能汚染によって深刻な収入減を蒙ったとして、東電に汚染の除去を求める仮処分を裁判所に申し立てた。裁判所はこの申し立てを却下した。東電側は、原発から離散した放射性物質は無主物であり、東電に除染の義務はない、と主張した。裁判所の手続は今も続いている³²⁾。

プロダクション：ドイチュラント・ラジオ・クルトゥア, バイエリッシャー・レントフンク共
同 2012年

(おわり)

興味がある方はオーディオ・ファイルをこちらでダウンロード出来ます:

<http://www.sendspace.com/file/7fzjqy>

参考文献

- 1) 松平盟子「祈りの淵の藍」雑誌『短歌』2011年5月号（角川学芸出版）
- 2) Peter Pörtner, Japan und einige Aspekte des Nichts, Konkursbuch 16/17, Tübingen 1986, S. 81
- 3) Reinhard Zöllner, Japan. Fukushima. Und wir, Iudicium, München 2011, S. 48
- 4) 松平盟子「祈りの淵の藍」雑誌『短歌』2011年5月号（角川学芸出版）
- 5) „Owners bet on Tohoku revival“ ジャパンタイムズ 2011年12月7日付
- 6) <http://blog.tagesschau.de/2011/03/23/warum-tritt-immer-wieder-rauch-aus/>
毎時 100 マイクロシーベルトの放射線量は、年間で約 870 ミリシーベルトに相当する。国際放射線防護委員会は、原発作業員および緊急時の住民の基準値として上限 100 ミリシーベルトを推奨している。自然放射線および人工放射線による被ばく量は、ドイツでは年間 2 - 5 ミリシーベルト。
- 7) 松平盟子「祈りの淵の藍」雑誌『短歌』2011年5月号（角川学芸出版）
- 8) 奈良林直 北海道大学教授（原子炉工学）、原子力安全委員会専門委員。2011年4月3日、テレビ朝日「サンデースクランブル」
- 9) http://www.greenpeace.de/themen/atomkraft/plutonium/artikel/plutonium_was_ist_das/
- 10) 松平盟子「祈りの淵の藍」雑誌『短歌』2011年5月号（角川学芸出版）
- 11) 菅原茂気仙沼市長「気仙沼の事業所の8割は破壊された」（2011年12月11日、NHK番組）
- 12) SPIEGEL Online: <http://www.spiegel.de/wissenschaft/mensch/0,1518,750774,00.html>
- 13) Gemeinsamer Jahresbericht 2010 der amtlichen Messstellen für Umweltradioaktivität NRW, S. 16, <http://www.umwelt.nrw.de/umwelt/umweltradioaktivitaet/index.php>
- 14) „Damages staff upped“ ジャパンタイムズ 2012年1月28日付
- 15) 以倉千壽「死の鐘」
- 16) „Government ignored own radiation forecasts“ ジャパンタイムズ 2011年8月10日付
- 17) „Evacuation order...“ ジャパンタイムズ 2011年12月24日付
「原子力安全委員会も原子力安全・保安院もデータを持っていたが、それを首相官邸に提出したのは3月23日、すなわち11日後のことだった。」
- 18) 以倉千壽「どの教え」
- 19) 23.88 マイクロシーベルト/時 = 209 ミリシーベルト/年
- 20) 松平盟子「祈りの淵の藍」雑誌『短歌』2011年5月号（角川学芸出版）
- 21) 「怒りの涙」南ドイツ新聞 2011年4月30日付「原子力専門家である小佐古敏荘氏は、内閣官房参与を辞任すると涙ながらに表明した。学者としてもはや責任がとれないことをその理由にあげた。」
- 22) 石橋克彦「まさに『原発震災』だ」雑誌『世界』2011年5月号126頁
- 23) „Unprepared for what happened“ ジャパンタイムズ 2011年12月29日付
- 24) <http://www.nytimes.com/2011/12/27/world/asia/report-condemns-japans-response-to-nuclear-accident.html?scp=1&sq=Japanese%20Panel%20cites%20failure&st=cse>
- 25) 三菱重工（その他のメーカー 東芝、日立）
- 26) „Advisers charge reactor stress test ignores...“ ジャパンタイムズ 2012年2月3日
- 27) „Lower house committee approves...“ ジャパンタイムズ 2011年12月3日
- 28) 閑吟集
- 29) 「経済産業省による夏の電力需要予測は、記録的に需要が高かった2010年夏を基にしたものだ。このようなデータ操作を利用し、原子炉再稼動に賛同しなければ計画停電の恐れがあると世論を脅そうとしたのだ。2011年夏の実際の需要は、前年よりも20%低かった。」（飯田哲也氏インタビュー）
- 30) 松平盟子「祈りの淵の藍」雑誌『短歌』2011年5月号（角川学芸出版）
- 31) 松平盟子「祈りの淵の藍」雑誌『短歌』2011年5月号（角川学芸出版）
- 32) 朝日新聞英語デジタル版 2011年11月24日付

‘Souteigai – Beyond Imagination’

Malte JASPERSEN

Abstract

Radio documentary feature was brought to being in post-war Germany as a new form of acoustic art. Unlike radio drama, the feature focuses on non-fictional facts, using unlimited formal possibilities: music, spoken language, sounds in varying combinations and emphasis. John Theocharis, former head of the feature section of the BBC, says, ‘A feature is a work using the various resources in radio in order to set the listener’s fantasy in motion and deepen his perception of the world and human existence’.

‘Souteigai’ is based on the manuscript of a German radio documentary feature of the same title — a production for Deutschlandradio Kultur and Bayerischer Rundfunk. The work is the result of extensive research on the catastrophes that struck Northeast Japan, in March 2011. Combining traditional reporting methods and elements of acoustic art and poetry, the author deals with existential questions that, in the wake of 3/11, are faced not only by the people of North-Eastern Japan but by all of us.

In September 2012, ‘Souteigai’ has been awarded the Special Price of the President of the Republic of Italy at the Prix Italia. Prix Italia is the most prestigious and oldest International Competition for Radio, TV and Web programmes. Public and private radio/television broadcasters from 45 countries are members of the Prix Italia.

Keywords: 3/11, tsunami, Fukushima, radio, documentary

